

行政視察報告書		
建設環境委員会行政視察		令和4年1月27日（木）
視察先及び 視察事項	長野県東筑摩郡朝日村	公共施設（朝日村役場・あさひ保育園）への地域産材の活用について
朝日村役場が平成30年度木材利用優良施設コンクールで「林野庁長官賞」を受賞した。また県ふるさと森林づくり賞で知事表彰を受賞、国土交通省の先導的中大規模木造建築物の事例発表会で「地域材でつくる木造庁舎」と題して発表もされました。 これは役場庁舎を単に木造にしたという事ではなく、下地があります。当時の中村村長は、村政運営に対する基本理念で「新しい感覚で朝日村をつくろう」という選挙公約を掲げました。三期にわたる村政の中で、村の財産である木材を有効活用しています。 平成21年は小学校の机・椅子、平成25年はスケート場管理棟、平成26年はコテージ10棟、平成27年はあさひ保育園、特にこの保育園は床以外をオール村内産のカラマツで新築しています。 朝日村役場庁舎は、村の面積の87%を占める森林に育成するカラマツを大胆に活用し、親しまれる村のランドマークとして農地や山々に囲まれた農村風景に調和しています。また木材使用により柔らかで温もりのある雰囲気醸し出している。 建築にあたり何年も前から事前に村の森林資源の調査をしている。樹種や樹齢、搬出できる場所にあるかなど地区ごとに調査している。樹齢50年以上の伐採適齢期を迎えたカラマツなども搬出が出来なかったり、コストが掛かる所は除かれたそうです。 地元材は自主調達その他、樹齢300年や160年のヒノキなどは村民の寄付により集まったそうです。寄付者の村への思いが伝わってきます。 松本市においては、旧郡部の合併町村には多くの森林資源が眠っている。公共建築物に木材を使うことは法律に明記されているからという事ではなく、地元産木材使用というアイデンティティをもっていただきたいと思う。そして時間がかかっても良いので計画的に準備をして実行していただきたい。 地元産木材を使用した公共建築物等は、木材使用の良さを伝えるのに、一般の住宅展示場よりも遙かに効果があると思う。		
令和4年2月4日 松本市議会議員 芝山 稔 様 建設環境委員会 委員 土屋 眞一		